

福岡県の主な農産物の生産状況

平成 29 年 8 月 21 日現在

(専技情報より抜粋)

◇早期水稲◇

4月中下旬植の「夢つくし」「コシヒカリ」の収穫は8月12日頃から開始され、梅雨明け後の高温の影響で、収穫は平年より3～5日早まり、8月24日までに終了の見込みです。穂数は平年並～やや多く、倒伏はほとんどありません。出穂後の高温やカメムシ類がやや多いものの、多照で他の病害虫の被害はほとんどないため収量は平年並です。高温が続いているため、刈り遅れに注意し、収穫後は直ちに適切な乾燥を行いましょう。

◇普通期水稲◇

出穂期は6月上旬植「夢つくし」が8月5～8日で3～5日早く、6月中旬植の「元気つくし」が8月15～18日で、平年より1～3日程度早まっています。葉いもち、セジロウンカ、コブノメイガの発生は平年より少ない一方、トビイロウンカの発生は平年より多く、特に増殖しやすい短翅型雌成虫の発生割合が高いです。(8/9、注意報発令)

カメムシも増加のおそれがあります。「夢つくし」の収穫は平年よりもやや早い9月中旬が最盛期になる見込みです。幼穂形成期～開花期は水が必要なため、十分に冠水をし、ウンカ類、カメムシ類の発生に留意し、適期に対策を行いましょう。

◇大豆◇

6～7月中旬播種のほ場は、概ね順調に生育しています。7月下旬播種のほ場は少雨による過乾燥の影響を受け、生育がやや抑制されています。現在は5葉～開花始期。一部ほ場で雑草の発生が見られます。現在病害虫の発生は問題になっていませんが、高温少雨によりハスモンヨトウ、カメムシが発生するおそれがあります。雑草、病害虫の対策を徹底しまししょう。開花期は平年並の8月下旬の見込みです。6葉期までに株元まで培土を行い、開花始期～子実肥大期は乾燥に最も弱い時期であり、本暗渠の栓を閉めて乾燥防止に努めましよう。中耕・培土作業終了後はうね間かん水を行いましよう。

◇イチゴ苗◇

6月中旬までの乾燥と6月下旬から7月の断続的な降雨の影響で、初期の発根と展葉が遅れたことから全体的に苗が充実不足となっています。8月中旬から早期作型では低温処理が始まり、定植開始は9月10日以降となる見込みで、ほ場の定植準備は順調

に進んでいます。炭疽病の発生が並～やや多く、うどんこ病は摘葉作業で減少し、ハダニ類、アブラムシ類の発生が見られます。早期作型では、生育に応じた作型の見直しや入庫前の寒冷紗被覆など高温対策を徹底しましょう。炭疽病の発生が見られる場合は発病株の除去等の対策を徹底しましょう。

◇アスパラガス◇

夏芽の出荷量は7月上旬をピークに緩やかに減少しており、10月下旬まで出荷が続く見込みです。細茎傾向で、高温のため曲がりや穂先の開き等の障害茎の発生が多くなっています。病害虫は例年並の発生ですが、スリップス類、ハダニ類の発生が増加しています。換気により昇温抑制に努め、斑点性病害、茎枯病、スリップス類、ハダニ類、ハスモンヨトウの対策を徹底しましょう。

◇温州ミカン◇

着果量は極早生が並、早生・普通がやや少～少です。梅雨明け後の高温乾燥により、果実の糖度・酸度はともに高く、果実肥大はやや小玉～平年並で推移しています。極早生を中心に裂果や日焼け果が一部発生しています。マルチ栽培では、果実の肥大、減酸状況を見ながらシートマルチの開閉、かん水などの果実品質向上対策を徹底しましょう。今後ハダニ、カメムシ類が多発期となります。対策を早めに行いましょう。

◇トルコギキョウ◇

夏季出荷作型（6～9月）の出荷が続いています。出荷量は系統共販出荷者および二度切り栽培の減少により減少しています。秋出荷作型（10～11月出荷）の定植は8月中旬で概ね終了し、定植後の生育は高温の影響で抽台がやや早いものの概ね順調です。秋出荷作型では定植後、抽台開始まで十分なかん水を行いましょう。定植後の遮光は晴天でも過度な遮光は避け、1週間程度で資材を除去しましょう。また、夜蛾類対策を徹底しましょう。

◇肉用牛◇

和牛去勢の枝肉単価は前月より若干低下し、前年比91%、過去5年平均比では116%、省令価格は前年比85%、過去5年平均比では103%と、前年より低水準が続いています。暑熱が続いているので、送風、遮光、細霧散布、屋根散水等の対策を徹底し、あわせて衛生管理を徹底しましょう。